

二〇〇八年度  
青葉会 役員より



顧問  
若林 明弘

閉課程記念総会・懇親会、大勢の人が参加してくれて、ありがたく、うれしく思った。私を含めた役員の思いは、この一点にあったといっても過言ではありません。出席された皆さま、ありがとうございました。この日、卒業した十人全員、PTA役員ワンテーブルにぎっしり、そしてデヴィ夫人の出席が会に華を添えてくれました。楽しく、準備できたこともすてきな思い出になりました。



昭和28年卒  
鳴戸 錦子

同窓会の思い出

思えば六十周年の名簿作りの頃から手伝い始め、到頭、閉校までできてしまい感無量です。

初めの頃は全て手作業で宛名から会報封入も糊をつけ先生方も手伝い下さいました。

北原賞を下さった北原三代子先生は家庭科で私はよく居眠りをしていました。起こさないようにとご配慮くださいました。

最後に北原賞が「ともかき」の集約版に活用できたことは全会員に思い出を送ることができ、改めて北原先生に感謝申し上げます。同窓会を手伝って良かった

ことは先輩の方に学校の先生、薬剤師等、社会で活躍されていること、また卒業後も恩師を大分まで訪ねているように絆の深さを感じました。

また、後輩には一年後には男子が入学し、名簿作りの時多くのカップルが誕生していることを知り喜ばしいことと思いました。

全国の各地からその土地で活躍されているのを知ることが嬉しいことです。

また、私は会計係に十数年携わり、維持費のご協力に深く感謝し、今年、無事終了することが出来ましたことを厚く御礼申し上げます。

母校は無くなりませんが七十数年の歴史は五千余名の生徒を社会に送りだし歴史の一頁を刻みました。

今後、各会員がそれぞれ、良き人生を送ることを心より願っています。



昭和38年卒  
福田 佐智雄

青葉会 最期のとき

三月八日、東京プリンスホテルで催された閉課程記念パーティーは予想を上回る同窓生や来賓で盛会となった。華やかな雰囲気の中、会は滞りなく進み、これが唄い納めになるであろう校歌の斉唱で無事閉会となった。長い歴史の終りを名残り惜しむような拍手が起り、やがて思い思いに散って行った。

「閉課程」は定時制に学んだ者にとって母校の「終焉」に等しいと言ったら言い過ぎだろうか。役目を果たし終えた母校に感謝するのみである。

青葉会は今、最後の作業に取りかかっている。即ちこの「ともかき」最終号である。

私は代理役員として三年余り青葉会に携わっている。それまで精力的に活動してくれていた同期生、山口英男君の急な入院でピンチヒッターに狩り出されたのである。

参加して驚いたのは大半の役員がとにかく長く、三十年と運営に当たってきたことだった。いま大きな行事を成し遂げた役員会には、近く開放されるという安堵感と一

抹の寂寥感が漂っている。いよいよ最期のときが近づいたのだ。山口君はその後、快方に向い前述のパーティーに元気な姿を見せてくれた。



昭和39年卒  
小林 利江

ともかきの編集に係わることで出来、とても嬉しく思っております。姑が倒れ、数年間の自宅介護が続き、亡くなって…そんな時期に心ならずもお手伝いをさせていただくことが出来ましたこと、本当に救われました。声をかけて下さった皆様に心より感謝致します。ありがとうございました。



三田高に感謝

学問を、というより、友を作りたという理由で三田を選んだ。生涯の友を得られた。同時に、妻となる相手も得たと思っていた。どこで会ってもいつも三田三田ほほんでいる女子がいた。

当時の私は、将来の夢として、収入の安定が見込めない職業を目指していたので、貧しさに耐えられる人、更に老いてからはかわいいお婆ちゃんになってくれる人をと望んでいた。

妻は同級生だった。今振り返ってみると、条件にぴったりだったことが判る。

私は体を病み、働けなかった時期もあったが、よく逃げださずに、支えてくれたものだと感謝している。

在学中はよく本を読んだ。雑誌があったので、多くの友人から、相談を持ちかけられ



昭和41年卒  
宮田 立治